

# 審査の結果の要旨

氏名 阿由葉 真司

本論文は、銀行セクターの安定性に協同組合銀行や貯蓄銀行といった地域銀行がどのような役割を果たしているかを、ドイツほか欧州諸国を対象に、各国の銀行制度が設計された歴史や経済構造を論じ、また各国の銀行財務データを基に安定性や効率性に関して定量分析を行い、検証したものであり、全9章と補論から構成される。

第1章では、本論文の研究目的や特徴、研究方法がまとめられ、第2章では、地域銀行の定義や設立経緯などが詳述されている。第3章では、地域銀行の具体的事例としてドイツの GLS コミュニティ銀行、オランダのトリオドス銀行の例が挙げられ、その根底に流れる思想について論じられる。第4章では、ドイツの銀行セクターの構造や設立経緯、社会的市場経済における銀行の役割が論じられ、銀行財務データを用いた収益性、効率性、安定性に関する定量的な分析が行われる。第5章では、同様の分析をフランス、スペイン、イタリアに拡張して行い、第6章では、主に Z スコアとラーナー指数を用いて、地域銀行による銀行セクターの安定性への貢献度が分析される。第7章では、他地域への応用として日本の銀行セクターの安定性分析を行い、第8章では、地域銀行の安定性にかかる諸論点がまとめられている。第9章では、本論文の結論と課題が述べられている。補論では、ドイツの経済構造に関して詳しく論じられている。

本論文の主要な学術的貢献は、以下の3点にある。

第一に、欧州債務危機以降の大規模データを用いて、地域銀行が銀行セクターの安定性に貢献してきたことを実証的に示した点である。銀行セクターの安定性に関しては、これまでも Z スコア、ラーナー指数を用いた分析があり、欧州債務危機が起こる 2010 年前後で、銀行間の競争が経営の安定性を高めるという **Competition-stability view** と、脆弱性を高めるという **Competition-fragility view** に関する議論が展開されてきた。しかし、既往文献での議論は結論に至っておらず、実証研究の充実が望まれていた。本研究は、1993 年～2017 年のドイツ連邦銀行統計と 2011 年～2018 年の Bureau van Dyke 社の Bank Focus のデータを用いて、銀行レベルのパネルデータを基に定量的な分析を行った。まず欧州四か国（ドイツ、フランス、イタリア、スペイン）の商業銀行と地域銀行の業績比較を行い、安定性、収益性、効率性に関する評価を比較したところ、地域銀行の方が総じて安定性が高いことが分かった。また、安定性の指標である Z スコアと市場支配力を示すラーナー指数を算出し、その関係性を分析すると、欧州四か国共通で **Competition-fragility view** を支持する結果となった。更に、固定効果モデルを用いて資産規模、貸付比率などが銀行セクターの安定性に与える影響を回帰分析すると、これら変数の増加は一般的に安定性に対してマイナスに働く一方、地域銀行に係る変数の増加はプラスに働く結果となり、地域銀行が銀行セクターの安定性に貢献していることを実証的に示した。

第二に、前述の定量的な分析に加えて、各国の銀行が設立された歴史的背景や思想、制度比較に関する考察も行い、包括的なアプローチで地域銀行が銀行セクターの安定性に与える影響を分析した点である。銀行セクターの安定性への貢献を分析したものは定量的な分析にとどまることが多く、その制度を支える外部環境などに関する分析が不足していた。一方で、定性的な文献においては、客観的なデータの裏付けに弱いという欠点があった。本論文は、定量的な分析だけではなく、銀行設立の思想や経済体制と銀行の関係、ガバナンスの問題等、広範な視点から銀行セクターの安定性を考察したものであり、包括的な考察を行ったことが学術的貢献に値するといえる。

第三に、欧州主要国の分析による知見を日本の事例と比較し、日本の銀行セクターの在り方に示唆を見出している点である。日本の銀行セクターのデータを用いて欧州主要国と同様の分析を行った結果、**Competition-fragility view** が成り立つことが示されたが、一方で銀行セクター全体の安定性に対する地域銀行の貢献は有意な結果ではなかった。これは日本の銀行セクターが過当競争に陥っているためであるとし、安定性を向上させるための対策として費用／収入比率の低下などの策が有効であるとしている。さらに、高成長を続ける新興国との比較も行っており、現時点では地域銀行は総じて脆弱であるが、一旦金融危機が起こると地域経済に与える影響が大きいことから、現段階で地域銀行を育成する政策を導入すべきという含意を導いている。

本論文の制約として、銀行の決済機能の役割を十分に評価せずにシステムの比較を行っており、制度設計への提言を行うには不十分な点がある。しかし、本論文は銀行セクターの安定性に地域銀行が貢献していることを欧州主要国の膨大な銀行財務データや歴史的資料に基づいて多面的に考察した論文であり、学術的、実務的な貢献があると言える。

よって本論文は博士（国際協力学）の学位請求論文として合格と認められる。

以上 1,998 字